

科目名	保育者論	担当教員	大石 洋子
科目コード	320001	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要（テキストによる通信教育）

<p>1. 「保育者論」とは 保育者に求められていることとは何か</p> <p>2. 「保育者の役割・職務内容」 保育者とはどのような仕事なのか</p> <p>3. 「保育者の倫理」 保育者にはどのような倫理が求められているか</p> <p>4. 「保育者の制度上の位置づけ」 児童福祉法における定義や保育者の資格と責務について</p> <p>5. 「保育士の専門性①」 保育者に必要な資質・能力とはについて</p> <p>6. 「保育士の専門性②」 養護及び教育の一体的展開について</p> <p>7. 「保育士の専門性③」 家庭との連携の在り方と保護者に対する支援について</p> <p>8. 「保育士の専門性④」 計画に基づく保育の実践と省察・評価の在り方について</p>	<p>9. 「保育士の専門性⑤」 保育の質の向上をさせる具体的手立てについて</p> <p>10. 「保育における職員間の連携・協働」 共に働く職員間の望ましい連携・協働について</p> <p>11. 「専門職間・専門機関との連携・協働」 保育現場における専門機関との連携や協働がどのように行われているか</p> <p>12. 「関係機関との連携」 地域における自治体や関係機関との連携と協働について</p> <p>13. 「保育者の資質向上に関する組織的取り組み」 保育者としての資質を高めるための意義や方法について</p> <p>14. 「保育者のキャリア形成」 保育者の専門性とキャリア形成の意義について</p> <p>15. 「保育におけるリーダーシップ」 保育所保育指針におけるリーダーの役割について</p>
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業終了時の達成目標

- 保育者の役割と倫理、制度上の位置づけ等について理解し、説明できる。
- 家庭との連携、関係機関との連携や協働はどうあるべきかを理解し、説明できる。
- 保育者の専門性とキャリア形成の取組や意義について理解し、説明できる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
・新 基本保育シリーズ⑦ 保育者論 (中央法規出版) ・保育所保育指針 ・幼稚園教育要領	試験	100.0%	
	レポート	100.0%	

科目名	こども家庭支援の心理学	担当教員	宮城 元子
科目コード	320002	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

まず、生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、発達に応じた子どもとの関わりを学ぶ。次に、家族・家庭の意義や技能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について、発達の観点から理解し、子どもとその家族を包括的に捉える視点を学ぶ。また、子育て家庭に関する現状と課題についても学ぶ。さらに、子どものこころの健康にかかわる問題を理解し、適切な対応について考えていく。

1. 生涯発達：乳児期／幼児期／学童期／青年期／成人期・中年期／高齢期の発達
2. 家族・家庭について：
 - ・家族・家庭の意義と機能と向き合い方／
 - ・家族関係、親子関係の理解と支援／
 - ・子育て経験と親としての育ち
3. 子育てを取り巻く社会的状況：
 - ・ライフコースとその視点を活かした子育て支援／
 - ・多様な家庭とその理解とその支援／
 - ・特別な配慮を要する家庭の理解とその支援
4. 子どものこころの健康にかかわる問題：子どもの気になる行動とその支援

授業修了時の達成目標

上記の4つの視点について理解し、保育士として適切な関わりについて、自分なりの意見をもつことができる。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ 子ども家庭支援の心理学	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	こどもの保健	担当教員	知念 菜穂子
科目コード	320003	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

- 第1講 生命のほじと情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的
 第2講 健康の概念と健康指標
 第3講 現代社会における子どもの健康に関する現状と母子保健施策
 第4講 地域における保健活動と子ども虐待防止
 第5講 身体発育及び運動機能の発達と保健
 第6講 生理機能の発達と保健
 第7講 健康状態の観察及び心身の不調等の早期発見
 第8講 発育・発達の把握と健康診断
 第9講 保護者との情報共有
 第10講 主な疾病の特徴① 新生児の病気、先天性の病気
 第11講 主な疾病の特徴② 循環器・呼吸器・血液・消化器の病気
 第12講 主な疾病の特徴③ アレルギー・免疫・腎泌尿器・内分泌の病気
 第13講 主な疾病の特徴④ 脳の病気・その他の病気
 第14講 主な疾病の特徴⑤ 感染症
 第15講 子どもの疾病の予防と適切な対応

授業終了時の達成目標

1. 子どもの保健、健康について、発達段階をおさえて理解する。
2. 子どもの保健の基本をおさえて、発育・身体機能・疾病との関連・予防・養護について理解する。
3. 保育環境、衛生管理、安全対策について理解する。
4. 母子保健について理解し、家庭、専門機関、地域との連携について考察する。
5. 現代の子どもの抱える様々な背景（環境）によって引き起こされる状況を把握し、よりよい保育環境を提供できる専門家としての基盤を作る。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新 基本保育シリーズ⑩ 子どもの保健 (中央法規出版)	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	こどもの食と栄養	担当教員	笠原 寛子
科目コード	320004/320005	授業形態	印刷/面接
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

テキスト

- ・小児期の健やかなよりよい成長と生涯にわたる健康づくりのための食・栄養に関する基礎的な知識を子どもの発育発達という特徴を踏まえて学習する。
- ・それぞれの時期に望ましい食生活のあり方、食育の重要性について、学び、適した食物の摂取や食育指導方法を習得する。
- ・レポート課題、単位認定試験課題を中心に子どもの食と栄養を理解する。
 1. 子どもの健康と食生活の意義 2. 栄養に関する基本的知識(栄養の基本、栄養素の種類とはたらき)
 3. 日本人の食生活の目標 4. 献立作成・調理の基本 5. 乳児期の授乳の意義と食生活
 6. 乳児期の離乳の意義と食生活 7. 幼児期の心身の発達と食生活
 8. 学童期・思春期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活
 9. 保育における食育の意義・目的と基本的考え方 10. 食育の内容と計画及び評価
 11. 地域や家庭と連携した食育の展開 12. 家庭や児童福祉施設における食事と栄養
 13. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養

スクーリング

- ・通信教育(レポート・科目試験)の理解を深め、保育者として子どもの栄養と食生活支援のあり方を学ぶ。
- ・保育所における食に関する保護者支援と地域連携について学ぶ。
- ・演習を通して食生活の支援、食育の実践方法を学ぶ。
- ・自分自身の食生活を評価し、望ましい食生活を理解する

授業修了時の達成目標

- ・小児期の食生活は生涯にわたる健康の基盤となることを理解する。
- ・子どもの発育・発達段階に応じた、栄養と食生活の意義や役割について知識を身に付け、保育者として適切な食事支援の方法を習得する。
- ・栄養の基礎的な知識を身に付け、自分自身の食生活、保育現場において柔軟な対応ができるようになる。
- ・現在の子どもの取り巻く食に関する環境と課題について理解し、保育者としてより効果的な食育を実践できる能力を身に付ける。
- ・食物アレルギー対策、疾病のある子どもの食支援等の知識を身に付ける。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ 子どもの食と栄養	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	
	スクーリング	100.0%	

科目名	保育内容総論	担当教員	島 朋子
科目コード	320007	授業形態	演習
単位数	1 単位	必修・選択	必修
コマ数	10 コマ	時間数	15 時間

授業概要（スクーリングによる通信教育）

・保育内容総論とは何か、保育内容や保育方法が園生活において、どのような仕組みで子ども達の発達を支えているか遊びの演習を通して学ぶ。

・保育所保育指針と幼稚園教育要領及び幼児期に育って欲しい 10 の姿を通して、子どもや子ども集団の発達や特性、発達過程を踏まえ、「観察や記録の観点」を修得し、保育内容と子どもの理解とのかかわりについて学ぶ。

・子どもの生活全体を通して、養護（生命の保持と情緒の安定）、教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）が一体となり展開することを事例やDVD教材を用い、グループ演習を通して学ぶ。

1. 保育内容総論とは …… ワークを通して学ぶ

2. 保育内容とは …… 養護と教育の一体化

保育内容の歴史的変遷

3. 幼児期までに育って欲しい 10 の姿について学ぶ

4. 遊びや生活を通して学ぶということ …… グループワーク及びDVD視聴を通して学ぶ

5. 遊びや生活を通して学ぶということ …… //

6. 遊びや生活を通して学ぶということ …… //

7. 領域と保育内容

8. 保育の計画と記録

9. 指導案作成

10. 授業の振り返りテスト

授業終了時の達成目標

・保育所保育指針における、「保育の目標」、「子どもの発達」、「保育の内容」、「10 の姿」を関連付けて保育内容を理解すると共に、主体的で対話的な深い学びと結びつけて、保育の全体的な構造を理解する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
指定図書:なし 適宜資料配布 DVD教材 ・保育所保育指針 ・幼稚園教育要領 ・幼保連携型認定子ども園教育・保育要領 ・新保育講座 4 保育内容総論「第 2 版」	受講態度	30%	
	課題	20%	
	単位認定試験	50%	

科目名	こどもと健康	担当教員	宮城 米子
科目コード	320008	授業形態	印刷
単位数	1	必修・選択	必修

授業概要

○生活や遊びを発展させながら、子どもの健康な心と体を育てる保育者になるために、テキスト「こどもと健康」を熟読し、子どもの健康についての理論と実践を学ぶ。

1. 健康に生きる
2. 発育と発達
3. 子どもを取り巻く環境の現状と健康課題
4. 保育における領域「健康」①
5. 保育における領域「健康」②
6. 子どもの健康と生活習慣
7. 食育と栄養
8. 子どもの運動遊び
9. 運動遊びの計画と評価
10. 運動と環境
11. 子どもの事故や病気、危機管理について

授業終了時の達成目標

- ・子どもを取り巻く環境の現状を理解し、「基本的な生活習慣」や「食育」、「心と体」について学ぶ
- ・「安全保育」や「危機管理」について理解を深める

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
保育者をめざすあなたへ こどもと健康	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	こどもと言語 I	担当教員	下地 京子
科目コード	320009	授業形態	印刷
単位数	1 単位	必修・選択	必修

授業概要（テキストによる通信教育）

【学習の目的・ねらい】

- ・乳幼児の発達と言葉、環境との関わりについて理解を深め、基本的な知識を習得する。
- ・幼稚園教育要領、保育指針に示されている「言葉」の内容について理解する。
- ・児童文化材の特徴と果たす役割、それを活用しての援助とかかわりについて理解する

<p>1 人の生活と言葉</p> <p>(1) 言葉とは何か</p> <p>(2) 言葉が人間生活の中で果たす役割・機能</p> <p>(3) 乳幼児の言葉の特色</p> <p>2 乳幼児の言葉の発達と環境</p> <p>(1) 子供の発達と言葉</p> <p>(2) 言葉の発達と環境</p> <p>(3) 言葉に関する問題の理解と園における対応</p> <p>3 領域「言葉」のねらいと内容</p> <p>(1) 幼稚園教育要領、保育指針に示された「言葉」に関する内容</p> <p>(2) 幼保連携認定こども園の「教育・保育要領」</p>	<p>4 児童文化財を通しての援助とかかわり</p> <p>(1) お話</p> <p>(2) 絵本</p> <p>(3) 紙芝居</p> <p>(4) パネルシアター</p> <p>(5) おもちゃ</p> <p>(6) テレビ</p> <p>5 言葉の発達をとらえる視点と保育評価のしかた</p>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業修了時の達成目標

- ・乳幼児の発達と言葉、環境との関わりについて理解し、基本的な知識が習得できた。
- ・幼稚園教育要領、保育指針に示されている「言葉」の内容について理解できた。
- ・児童文化材の特徴と果たす役割、それを活用しての援助とかかわりが理解できた。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
子どもと言葉<新訂第2版> 萌文書林	試験	100.0%	
	レポート	100.0%	

科目名	乳児保育 II	担当教員	照屋 恵
科目コード	(スクーリング) 320011	従業形態	演習
単位数	1	必修・選択	必修
コマ数	10コマ	時間数	15時間

授業概要 (スクーリング)

「乳児保育 II」では「乳児保育 I」で学んだことをもとに、保育士として現場に立った際の基本的知識や技能への理解を深める。演習を通して様々な場面での対応の在り方を習得し、乳児保育に求められる保育士としての基本姿勢・資質への理解をさらに深め、実践できるようにする。

1. 乳児保育の基本
2. 子どもの生活の流れ(0歳児クラス)
3. 子どもの保育環境(0歳児クラス)
4. 子どもの援助の実際(0歳児クラス)
5. 子どもの生活の流れ(1歳児クラス)
6. 子どもの保育環境(1歳児クラス)
7. 子どもの援助の実際(1歳児クラス)
8. 子どもの生活の流れ(2歳児クラス)
9. 子どもの保育環境(2歳児クラス)
10. 子どもの援助の実際(2歳児クラス)
11. 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮
12. 集団での生活における配慮
13. 環境の変化や移行に対する配慮
14. 長期的な指導計画と短期的な指導計画
15. 個別的な指導計画と集団の指導計画

授業修了時の達成目標

- *乳児保育に求められる基本的な知識・技能や考え方を説明できる
- *乳児保育に求められる基礎的な技能について実践できる
- *専門職としての保育士の立ち位置を深く理解し、自主的・主体的な学習を実践できる
- *受講者同士で意見の相違を尊重し共同的な学習を実践できる

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
新・基本保育シリーズ⑮ 乳児保育 I・II (中央法規出版)	授業態度	25%	
	課題	25%	
	単位認定試験	50%	

科目名	障がい児保育	担当教員	酒井 洋
科目コード	320012/320013	授業形態	印刷/面接
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

1. 障害の概要と対象
2. 障害児保育の歴史的変遷
3. 知的障害の理解と支援
4. 自閉症スペクトラム障害の理解と支援
5. 注意欠如・多動性障害の理解と支援
6. 肢体不自由児の理解と支援
7. 視覚・聴覚障害の理解と支援
8. インクルーシブ保育と特別支援教育
9. 指導計画の作成と記録および評価
10. 地域の専門機関との連携
11. 保護者や家庭に対する支援
12. 諸検査による客観的なこども理解
13. 療育とは
14. 発達支援の技法(特に TEACCH プログラムと感覚統合理論)
15. 障害児保育をとりまく(医療・保健、福祉、教育の)現状と課題

授業終了時の達成目標

1. ノーマライゼーションの理念と障害児保育の実践が共通するものであることを理解する。
2. 対象となる障害について基本的な理解と保育支援方法を習得できている。
3. 関係機関との連携によって、安全・安心な保育実践が提供できることを理解する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
よくわかる障害児保育 第2版	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	
	スクーリング	100.0%	

科目名	保育実習 I (保育)/(施設)	担当教員	仲間 優子
科目コード	(保育実習 I 保育所) 320015 (保育実習 I 施設) 320016	授業形態	実習
単位数・日数	4 単位 (保育実習 I 保育所) 11 日間 (保育実習 I 施設) 11 日間	必修・選択	必修

授業概要

実習期間：11日(90時間)

実習時期：7月～2月 *保育・施設どちらを先に実施してもよい

実習先：(保育)保育所、幼保連携型認定こども園、小規模保育 A 型

(施設)保育所以外の児童福祉施設およびその他の社会福祉施設

<目標>

1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する。
4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。

授業修了時の達成目標

乳幼児への理解を深めるとともに、保育所と保育士の役割を現場体験を通して理解する。さらなる学習に向けて学習課題を見出す。

施設利用者との関わりや地域の福祉ニーズについて理解を深める。施設保育士の業務について理解し、業務を遂行するための知識や技術を身につける。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	実習	100.0%	

科目名	保育実習指導 I	担当教員	仲間 優子
科目コード	(レポート・科目試験)320017 (スクーリング)320018	授業形態	印刷・演習
単位数	2 単位	必修・選択	必修

授業概要 (スクーリング)

<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>1 保育実習の意義・目的を理解する。保育所・認定こども園、児童福祉施設とは何かを知る。</p> <p>2 実習の流れと実習上の留意点を理解する。</p> <p>① 観察実習、参加実習、責任(部分)実習とは何かを学ぶ。</p> <p>② 社会人としてのマナーや、報告・連絡・相談(ほうれんそう)についても知る。</p> <p>3 実習課題の設定、実習簿の書き方、指導案の立て方を学ぶ。</p>	<p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1 実習の意義・目的を理解する</p> <p>2 保育実習に向けてのマナーと心得</p> <p>3 保育実習の計画・準備の確認、保育実習日誌の書き方</p> <p>4 実習の目標や実習課題の設定</p> <p>5 保育に活かす教材と実践例(自己紹介等)</p> <p>6 保育実践および指導案について</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

授業概要 (テキストによる通信教育)

<p>実習体験から自己課題を見出し、次の実習に対して目標を明確にして臨 I → II・III、実習生 → 保育者への架け橋になるのが事後指導(振り返り/省察)である。</p> <p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>・実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題や学習目標を設定する。</p>

授業終了時の達成目標

<p>(スクーリング)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習に関するマナーを理解するとともに、子どもの生活や遊びにおける関心をもって実習に臨む。 ・実習の意義や目的の理解、知識・技術の確認等を行う。 ・実習日誌の書き方および指導計画の立て方を身につける。 <p>(レポート・科目試験)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実習の意義・目的、児童福祉施設の役割について理解できる。 ・実習の振り返りと自己評価を行い、次の実習課題や学習目標を設定する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
	(レポート・科目試験)		
	試験	100%	
	レポート	100%	
	(スクーリング)		
	受講態度	30%	
	課題	20%	
	単位認定試験	50%	

科目名	こども学概論	担当教員	小禄 朝也
科目コード	320014	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

こども学は、こどもを様々な角度からとらえ、こどもとは何かを総合的に考えるものです。
 こどものとらえ方として、医学、心理学、看護学といった生理学的な視点、こどもの表現活動やイメージ、こどもを取りまく環境など多くの学問領域を学びます。

授業修了時の達成目標

こどもの成長発達の一般的な特性と家庭を理解する。
 こどもの自由な発想への環境構成、援助のあり方を理解する。
 こどもを取り巻く環境について理解する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
子ども学がやってきた	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	

科目名	こどもと造形Ⅱ	担当教員	平良 亜弥
科目コード	320019	授業形態	印刷
単位数	2	必修・選択	必修

授業概要

- 1 幼児の造形表現の意義
- 2 発達段階と造形表現の特徴
- 3 人間の完成と表現の関係性
 - ・線、形、色について
 - ・評価と声かけ
 - ・「描く」と発達段階
 - ・「つくる」と発達段階
- 4 造形表現の歴史
- 5 造形に発展する素材と表現方法の広がり
 - ・「描く」造形表現
 - ・描画材と描画の技法
 - ・「つくる」造形表現
 - ・「つくる」材料とその技法
- 6 地域環境の場と幼児の造形表現の関わり

授業終了時の達成目標

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
幼児の造形表現Ⅱ (ななみ書房)	レポート	100.0%	
	科目試験	100.0%	